

新潟市都市計画基本方針

市の都市計画の基本的な方針として、平成20年7月に策定しました。

めざす都市のすがた

田園に包まれた多核連携型都市
—新潟らしいコンパクトなまちづくり—

これは、「田園・自然」に囲まれたまち（市街地）が、まちなかを中心としたまとまりのある（コンパクトな）まちを形成し区（生活圏）の自立性を高めることと、それぞれの区の連携を高めることにより、様々な個性と魅力をもつ連合体としての新潟市を目指すものです。

都市全体の構造

都市全体の構造を、以下の3つの要素から考えます。

- 市街地形態の維持と田園・自然の保全
- 都市及び地域の拠点の育成
- 地域の拠点間の連携

図 都市構造概念図



新潟市の主な都市計画

都市計画区域

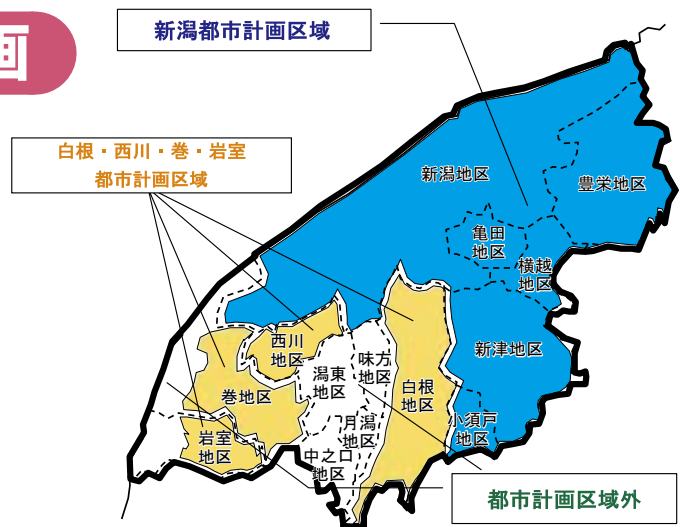
新潟市域	72,610ha	
新潟都市計画区域※	43,408ha (57,876ha)	線引き
白根都市計画区域	7,706ha	非線引き
西川都市計画区域	2,473ha	〃
巻都市計画区域	4,980ha	〃
岩室都市計画区域	2,202ha	〃
都市計画区域外	11,841ha	

※新潟都市計画区域は、新潟市、新発田市、聖籠町で構成。
()内は区域全体の面積

主な取り組み

- 平成20年10月、準工業地域の大部分に大規模な集客施設の立地を制限する特別用途地区を決定しました。
- 都市計画区域の再編、市街化区域及び市街化調整区域の見直しに取り組んでいます。

(都市計画課)



住民参加のまちづくりの推進

より多くの市民がまちづくりに興味を持ち、多数の市民が参画する基で進めるまちづくりを推進します。

(主要事業)

- ・まちづくり勉強会の支援
- ・まちづくり講座の開催



近隣小学校と連携した早川堀通りの勉強会



まちづくり講座

賑わうまちなかの推進

○来る人、住む人、働く人にとって魅力的なまちなかを目指し、中心市街地の活性化を推進します。

(主要事業)

- ・新潟駅南口第二地区第一種市街地再開発事業
- ・万代島にぎわい空間創造事業

○みなとまち新潟の歴史と文化を活かしたまちづくりを推進します。

(主要事業)

- ・早川堀通り水と緑のみちづくり推進事業
- ・まちなかお宝解説板等整備事業



中心市街地の賑わいづくり（本町通り）



まちなかお宝解説板（願随寺）

(まちづくり推進課)

コミュニティを醸成する市街地整備の推進

鳥屋野潟南部開発計画

－水と緑に恵まれた自然・優れたアクセス性 鳥屋野潟南部は都市のアメニティゾーン－

「鳥屋野潟南部開発計画」は、新潟市内にあって豊かな自然を残す鳥屋野潟に隣接するとともに、高速交通網の結節点に位置する鳥屋野潟南部地区約270haにおいて、環日本海地域の拠点にふさわしい環境の優れたアメニティ空間の創出、新しい都市機能の導入を行うもので、民間活力の導入を図りながら、県・市・亀田郷土地改良区の三者で、整備を推進しています。

新潟市民病院



平成19年11月に、新潟市民病院が開院し、病院周辺の民有地においても、土地区画整理事業が行われ、病院関連施設などの整備が進められています。(ウェルネスゾーン)

HARD OFF ECO スタジアム 新潟 イメージ図



平成21年秋の「トキめき新潟国体」に向け、競技会場となる「HARD OFF ECO スタジアム 新潟」の整備が進められています。(総合スポーツゾーン)



鳥屋野潟南部開発地区 A=270ha

まちなかのリニューアル

－中心市街地を活性化し、にぎわい・魅力のあるまちなかを創出します－

民間建築活動との連携により土地の高度利用と都心居住の促進を図り、誰でも利用できる広場や緑地等の公開空地を整備することで中心市街地のにぎわい再生を推進します。また、中心市街地において、公益施設等の都市機能の導入やにぎわい空間を創出するため、空きビルの活用や公開空地等の整備を支援する暮らし・にぎわい再生事業に取り組みます。



【寄居町地区
まちなか再生建築物等
整備事業】
既成中心市街地である
古町周辺地区に建築され

た築40年余りを経過した老朽マンションを建替え、優良住宅による都心居住の促進と公開空地による周辺環境の改善を図りました。



【西堀通6番町地区
まちなか再生建築物等整備事業】
低未利用地に、住宅と商業施設による複合ビルを建設し、都心居住の促進と土地の合理的かつ健全な高度利用により、中心市街地の活性化を図ります。

緑豊かな敷地内通路

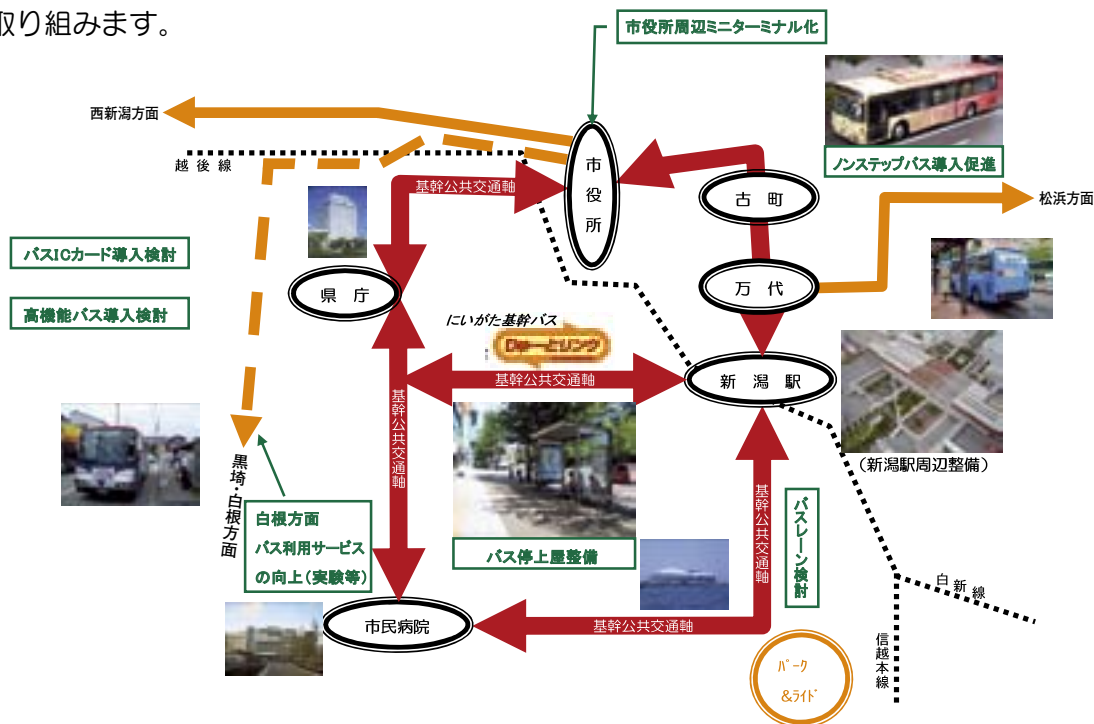


(市街地整備課)

快適に移動できる交通便利都市を目指して

「にいがた交通戦略プラン」&「オムニバスタウン計画」の推進

基幹公共交通軸を中心にバス交通の機能強化を図るとともに、区バスや住民バスなどにより、生活交通の確保に向けて取り組みます。



新たな交通システムの導入に向けた検討

本市にふさわしい新たな交通システムの将来的な導入を見据え、基幹公共交通軸を中心としたルートや導入システム（LRT、次世代型バスシステム（BRT）、小型モノレール）、導入効果について総合的に検討を行います。



LRT (フランス・ナント市)



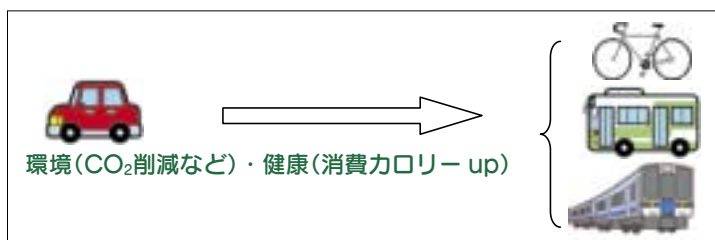
BRT (フランス・ナント市)



モノレール (那覇)

モビリティ・マネジメントの推進

ノーマイカーデーの実施などにより過度なマイカー依存からの脱却を目指します。



※モビリティ・マネジメント（MM）とは、過度に車が利用されている状況において公共交通や自転車などへ自発的な交通行動の変化を促すコミュニケーションを中心とした交通施策

(都市交通政策課)

～日本海交流都市の拠点づくり～



万代島にぎわい空間創出事業

万代島の「地方卸売市場 新潟魚市場」跡地を活用し、地元の鮮魚などの販売を行う「市民市場」を中心とするにぎわい空間を展開することで、「みなとまち新潟」の都市イメージを内外にアピールして交流人口の拡大を図り、活力と魅力ある「にぎわいの港」づくりを行います。

日本海横断国際フェリー航路開設事業

世界の成長センターである東アジアの時代の追い風を受け、我が国にとって日本海物流はますます重要性を増しています。

本市では、このような東アジアの現状を踏まえ港を核とした拠点性の強化に取り組んでいますが、新潟とロシア、韓国を結び、ロシアの背後地の中国東北部にもつながる本航路の実現は、北東アジア諸国との太いパイプとして、地域に大きな経済効果をもたらすものと期待されています。早期開設に向け、4ヶ国の関係者が協力して準備を進めていますが、本市も航路開設と開設後の航路振興に向けて取り組みます。



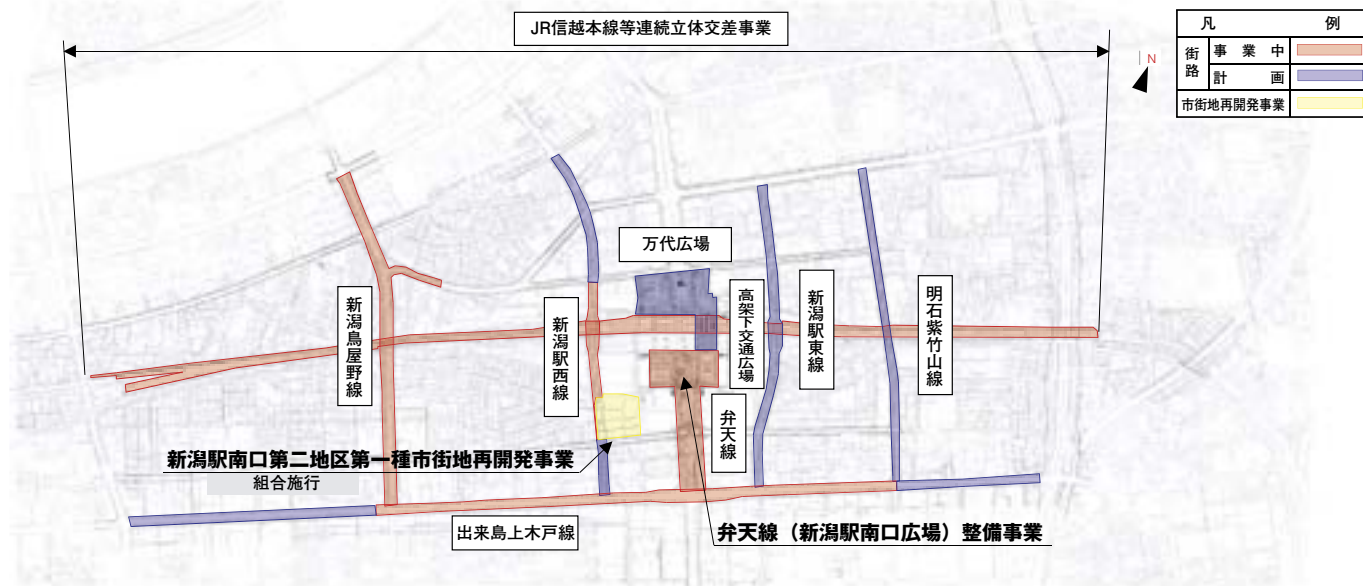
新潟空港利用活性化事業

新潟空港の航空需要の拡大及び活性化を図るため、PRを積極的に行います。また、国内・国際各路線の新設・拡充を図るほか、既存の国内6路線・国際7路線の拠点性を高め、利用客増や国際交流を促進するための事業を実施します。

中国首都圏への新規航空路開設のため航空会社へのエアポートセールス及び関係機関との交流促進を図ります。

(港湾空港課)

新潟駅周辺整備事業概要



新潟駅周辺整備は、鉄道を挟んだ南北市街地の一体的な整備を図り、環日本海の中核拠点都市にふさわしい都市機能の強化や、都心としての象徴的な地域づくりに向け、鉄道在来線の高架化や幹線道路・駅前広場などの都市基盤をはじめ、駅周辺市街地の整備を図ることを目的としています。

- 鉄道連続立体交差化
事業名：JR信越本線等新潟駅付近連続立体交差事業
延長：L=約2.5km
撤去踏切：米山踏切，天神尾踏切

- 幹線道路の整備
新潟鳥屋野線 W=30m, L=816m, 事業認可H18～
新潟駅西線 W=22m, L=831m,
うちL=389m分のみ事業認可H18～
新潟駅東線 W=22m, L=750m, 事業認可未定
明石紫竹山線 W=18～22m, L=766m, 事業認可未定
出来島上木戸線 W=22m, L=1,855m,
うちL=1,197m分のみ事業認可

- 駅前広場の整備
万代広場 約1.7ha
南口広場（弁天線含む） 約1.4ha, 事業認可H18～
高架下交通広場 約0.4ha

弁天線（新潟駅南口広場）整備事業



新潟駅の交通結節機能の向上を図ることにより、公共交通の利用促進を図るものです。

本年度開催される国体に向けて、新しい南口広場に、バスベイ、タクシープール、自家用車整理場、中央広場を整備します。

また、駅舎2階出口から南口広場へのアクセス向上のため、駅舎に沿ってペDESTリアンデッキを先行整備し、中央広場の両側に階段、エスカレーター及びエレベーターを設置しましたので、上下空間の移動がスムーズに行えるようになっています。

第二地区市街地再開発事業

新潟駅直近の立地を活かした高度な商業業務と都心居住を促進し、低未利用地の土地有効活用を目指します。

また、新潟駅西側連絡通路と当該2階レベルを接続する歩行者デッキを整備し、快適な歩行者空間の創出を図っていきます。

- (AⅠ棟)
・規模：地下1階，地上31階
・主要用途：商業施設，業務施設，住宅，駐車場
- (AⅡ棟)
・規模：地上11階
・主要用途：駐車場，商業施設，スポーツ施設
- (B棟)
・規模：地下1階，地上7階
・主要用途：商業施設



(新潟駅周辺整備事務所)